

4. 身分とジェンダー

2025.10. 9. 大橋 幸泰

はじめに

本日の対象／「4 身分社会の見方」、「18 近世社会におけるジェンダー」

→人々の境界としての身分とジェンダー／時代により異なる／その近世的特質について考える

1. 齊藤紘子「4身分社会の見方」

(1) 「身分」についての教科書記述

「身分制」から「身分社会」へ／1990 代以降、近世身分論の展開とともに、教科書の表現も変化

→「身分」を支配の道具とする理解から、社会のあり方を理解する手段へ、転換

→士農工商は儒者などのイデオロギー／実際には集団ごとに組織された利害集団

→近世の身分集団に不可欠な三要素：職分・共同組織・役／集団外の実業家を排斥

* 近世身分論は集団論として展開

(2) 近世身分社会の特質に関する論点

「身分と法の秩序」の進展／近世社会の秩序は何によって維持されたか

a. 身分集団に依拠した支配／集団別支配

b. 身分集団による規制／集団による自律的な規制

→幕法・藩法とともに、諸集団が自律的に制定した法により、近世社会は秩序が維持されていた

* 中世では領主権力が脆弱／自力救済の原則により、諸集団間の確執はしばしば実力行使に展開／近世では、自力救済は否定され、諸集団間の確執は上位権力に委ねる仕組みが整う

2. 横山百合子「近世社会におけるジェンダー」

(1) 表と裏—幕藩体制とジェンダー

将軍家と大名家／世襲制による継承／「表」とともに「奥」の存在が不可欠

→奥向きにおける正妻・側室とその側近を務める女性／内証ルートによる表向きへの介入(人事・財政)など

* 実際、内証ルートによる大名家の昇進運動

→近代以降、官僚制では奥向きの存在が否定され、完全に女性は政治から排除

(2) 身分・家とジェンダー

近世社会の家とジェンダーを考える際の留意点

a. 近世社会における庶民の家相続／男性優位の傾向だが、男系・父系優先ではない姉家督(長子相続)の事例

→ジェンダーより家の存続を優先／一方で、村社会において女性が排除されている点も指摘される

→男性優位の傾向のなかで、それに逸脱する女性の事例をどのように評価するか／小農経営の没落のなかで

主婦としての女性の地位が揺らいだ結果とみるか、女性の自立化が進んだとみるか

* いずれにしても、ジェンダーのあり方は一律ではない／地域の慣習も影響

b. 「女」という記号／「女〇〇」という表現は近世に成立

→18C、女性の身分・職業だけを集める書物が登場／性や芸能を売る職業か、内職の仕事

(3) 近世城下町とジェンダー—性売買の体制化

遊郭の成立／近世城下町の成立と不可分

→特に江戸は、参勤交代の武士、大店の奉公人など、膨大な数の男性の存在／秩序維持・風俗統制のため、遊郭を公認／都市金融が農村女性の身売りに吸着して、性売買を維持する広域的システムの成立
*近世の支配構造が性売買のシステムをつくりだした

3. コメント

(1)身分の移動／武士の特権(苗字帯刀)が被支配層の有力者へ付与される

その方法／①身分の物権化により金銭で譲渡、②支配権力による地域秩序の維持を企図

→身分の移動により、身分間の境界が曖昧化／支配身分・被支配身分の中間層の出現

背景に支配層の窮乏化と村社会における格差拡大

→18C以降、商品経済の進展のなかで、抑商主義が動揺／豪農のような中間層が、地域社会のヘゲモニーを握るキーパーソンへと上昇／近代秩序の治者へ(資本家・名望家・代議士など)

(2)身分社会の論理の浸透／最下層の人々も内発的に受容

身分集団から排除された人々(被差別民を含む)も、公的身分集団の論理を活用

→排除された者たちも独自の仲間を形成し、集団としての特権や公認を求める運動を展開

→近世身分社会の成熟とともに、矛盾を内包／横並び意識の醸成／近世的尊卑上下の秩序を揺り動かす／そもそも土農工商は横並びの議論

土農工商(四民)／前近代、儒教文明圏社会における人民を指す語

→近世日本でも、尊卑上下の関係を意味する語として用いられていない／支配・被支配の関係でなく、横並びで解釈／「上下無し」の希求

→土農工商とは、特に農工商の被治者が自分の存在意義を主張する際に持ち出す言説／ただし、賤民身分への差別視と表裏

(1)(2)により、19C前～中、近世身分社会の動揺から解体へ

(3)集団論から、集団論+個の議論へ

人と人との境界／身分とジェンダー／身分とジェンダーを融合的に議論するにはどうすればよいか

→集団論ではジェンダーをめぐる問題を組み込めない／集団を形成しない女性(など阻害された人々)も身分と考えるためには、個の視点が必要

*身分とは／秩序維持のために人為的に創作された、尊卑上下の観念をともなう人間の 카테고리

おわりに

一人の人に一つの身分という発想は誤り／属性論の提起

→一人の人間、一つの集団が、複数の身分・属性によって成り立っていることを念頭に人々の営みを考える

【テキスト】

牧原成征編『日本史の現在4 近世』(山川出版社、2024年)

【参考文献】

深谷克己『江戸時代の身分願望』(吉川弘文館、2006年)

大橋幸泰 他編『〈江戸〉の人と身分』全6巻(吉川弘文館、2010-11年)

【付記】

・明日までに、Hoppiiieにて講義記録の提出を求める。